

第39回

卒業式

3月11日(金)埼玉県の川越プリンスホテルにおいて
平成27年度ホンダテクニカルカレッジ関東の
卒業式が執り行われました。

ご来賓の皆さまより温かいご祝辞
や激励のお言葉を頂戴し、多数の保
護者の皆さまにもご参列いただき、
今年度224名の学生が卒業いたし
ました。卒業証書の授与に引き続き
各種表彰が行なわれ、最後は国際科
3年の村野さんが「お礼の言葉」
を読み上げ、先生方とご両親へ
感謝の気持ちを伝えました。

第二部の謝恩会では美味しい料理
をいただき、先生方と保護者の皆さま
共に学んだ仲間と一緒に卒業をお祝
いいたしました。ご卒業本当におめ
でとうございます。皆さまの今後の
ご活躍を祈念いたします。



卒業証書を授与
され、校長と握手
をする研究科の
川野さん



式辞を述べる山田校長



「送る言葉」を読み上げる
研究科1年 横瀬さん

「お礼の言葉」を
読み上げる
国際科3年 村野さん

ご卒業おめでとうございます。卒
業にあたり、二つのことをお話しし
たいと思います。

一つ目は初代校長の本田宗一郎さ
んがかつて学生に向けて話した「若
い時の苦労と我慢を乗り越えたとこ
ろにバラ色の人生がある」という言
葉についてです。苦労も我慢も実力
以上のことを成し遂げるときに生ま
れてきますが、皆さんが今以上に成
長するためには、苦労と我慢が、必
要になると思います。

二つ目は、夢の話です。言い換え
れば目標のことです。苦労や我慢を
乗り越えたいためには本田さん
が「自動車をやりたいかった」と言っ
ているように、やりたいこと、つまり
夢、目標を持ち、それを実現するた
め一生懸命になることです。行く道
には困難もあるでしょう。皆さんは、
それを乗り越えるだけの十分な力を
備えています。この学園で身につけ
た技術力と知識と社会性を活かし、
その基盤の上に、これからの経験や
知識を積み重ねていき、大きく羽ば
たき、成功と、バラ色の人生を、手
に入れて頂きたいと思えます。

そのことを心から願ひ、私からの
卒業の式辞と致します。本日は卒業
おめでとうございます。

校長 山田 幸昌
(卒業式校長式辞より抜粋)

今年度、自動車整備科 **126**名、一級自動車整備研究科 **49**名、国際自動車整備科 **9**名、
自動車開発エンジニア科 **40**名、合計 **224**名が卒業いたしました。

自動車整備科

高校生の時、運転免許を取得
する為に通っていた自動車教習
所。そこでクルマを運転するこ
との楽しさを知ることになりま
した。それがきっかけでホンダ
学園に入学したのですが、高校
は文系だし、クルマは運転だけ。
クルマの事はまったく知らな
かった。こんな私でも楽しい2
年間を過ごし卒業まで来てしま

楽しいと思っただけ、
クルマを知れば知るほど、



田崎 玲子さん

いました。1人では出来ないこ
ともあったけれど、クラスメイ
トに助けられ、クルマの楽しさ、
面白さを知ることができました。
今の目標は教習所の教官になる
ことです。今度は次の人たちに
クルマの楽しさ・面白さを伝え
て行きたいと思えます。まずは
教習所の指導員資格取得を目指
してがんばりたいと思えます。

就職先 (株) レインボーモーターズスクール

一級自動車整備研究科

国家一級整備士資格を目指し
4年間の専門課程を修了いたし
ました。国家試験を目指す勉強
は過酷でしたが、クラスの全員が
同じ目標に向かってがんばって
いて、そのことが自分自身の精神
的な大きな支えにもなっていま
した。私はホンダ学園で同じ志
を持ち切磋琢磨できる仲間と出
会うことができました。高校生

切磋琢磨できる仲間と
出会うことができました



稲葉 雄矢さん

までの自分と比較して人間とし
ても成長することができたと思
感しています。卒業後はホンダ
カーズで働きます。やるからには
上を目指してがんばらうと思
います。まずは与えられた仕事を
しっかりとやります。将来は多く
のお客様にサービスを提供でき
るよう立派なサービスマンを目
指します。

就職先 (株) ホンダカーズ埼玉

国際自動車整備科

ホンダ学園に入学した時を思
い出すと、私は留学生でしたので、
緊張することが多かったと思い
ます。でも勇気を持って最初の
一歩を踏み出したとき、目の前
に今までとはまったく違う別の
世界が見えてきたと思えます。
物怖じせずに、気楽に接するこ
と。そうすればみんな友達になっ
てくれる。クラスメイトとも仲

世界中にホンダの
思想を伝え、広めたい



王 秋実さん

良くなることができ、難しい専
門課程を修了することができま
した。ホンダ学園では整備技術
を通してクルマやバイクのこ
とを沢山学びました。他の専門学
校や大学では勉強できないこと
も学ぶことが出来たと思ってい
ます。将来は語学力を生かし、
ホンダの思想を沢山の人の手に
行きたいと思えます。

就職先 本田技研工業(株)

トップセミナー



本田技研工業株式会社
代表取締役社長 社長執行役員
八郷 隆弘さん

2月15日、本田技研工業代表取締役社長執行役員八郷隆弘さんをお迎えし、平成27年度トップセミナーを開催いたしました。
最近話題になっている燃料電池自動車。そしてホンダは今、水素を活用した新しい社会に向けてチャレンジしています。

地球温暖化という環境問題を背景に、ホンダが水素を活用した社会を作ろうとしている理由と、燃料電池自動車開発の歴史、水素社会を実現するにあたっての今後の課題、最後にホンダが目指す水素社会についてお話いただきました。

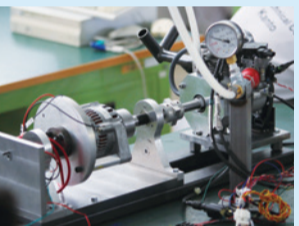
「自分の将来、家族の将来、そして社会、地球の将来に向けてチャレンジしてください。そしてご自身の夢を実現してください。まだまだ皆さん、これから長い人生、チャレンジすることがいっぱいあると思います、ぜひこれからもがんばってください。」こうしてセミナーを締めくくった後、時間の許す限り学生の質疑応答に応じていただきました。



卒業製作発表会

3月2日～3日、自動車開発エンジニア科の卒業製作発表会が行なわれました。

自動車開発エンジニア科



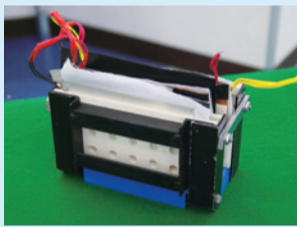
小型エンジンの研究



大容量ラゲッジスペースを持つ貨物バイクの開発



蒸気機関の研究



空気電池の研究



4WSカーの製作



SRモータの研究

卒業製作は開発科の2年生が、約1年を費やしてモノづくりに取り組むカリキュラムです。
自分たちが作りたいものをただ作るのではなく、リサーチを行い、企画・設計・試作・テスト・発表というホンダと同じモノづくり工程を実践学習しながら進めていきます。会社でお金を遣いモノづくりに取り組む際は、何かしらの成果を出さなくてはなりません。卒業製作でも各グループが予算を割り当てられそれぞれの成果を求められます。初めてのモノづくり体験は新しいことの連続で、試行錯誤することも多かったと思います。

発表会のプレゼンでは、テーマを決めた背景や目的、モノづくり工程での試行錯誤、問題解決に至ったアイデアなどが発表されました。2日目のデモンストレーションでは、実際にモノを動かして取り組んだ成果を披露してくれました。
総評の中で先生方がおっしゃって

「自分の将来、家族の将来、そして社会、地球の将来に向けてチャレンジしてください。そしてご自身の夢を実現してください。まだまだ皆さん、これから長い人生、チャレンジすることがいっぱいあると思います、ぜひこれからもがんばってください。」

苦労した1年間があったからこそ、この意味を理解することが出来たと思います。頭では分かっている、実際に体験するのでは大きな違いがあると思います。そういう意味で、学生の皆さんは1年を費やして本当に価値のある活動をしてきたと思います。
1年間本当にお疲れ様でした。モノづくりができるという自信を持って、卒業後も実社会でがんばってください!

卒業製作では開発科の2年生が、約1年を費やしてモノづくりに取り組むカリキュラムです。
自分たちが作りたいものをただ作るのではなく、リサーチを行い、企画・設計・試作・テスト・発表というホンダと同じモノづくり工程を実践学習しながら進めていきます。会社でお金を遣いモノづくりに取り組む際は、何かしらの成果を出さなくてはなりません。卒業製作でも各グループが予算を割り当てられそれぞれの成果を求められます。初めてのモノづくり体験は新しいことの連続で、試行錯誤することも多かったと思います。



Targa Bambina Rally

2016

カテゴリ-0
ワン・ツー
フィニッシュ!

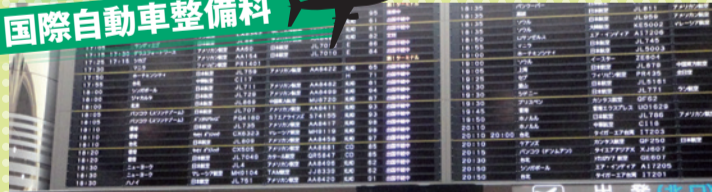
ラリーを完走した009号車
(写真は Team MUSASHI 2016 公式ブログより)



3月5～6日、ニュージーランドで開催された、Targa Bambina Rally 2016 (タルガ・バンビーナ・ラリー)。東京大学とホンダテクニカルレッジ関東の合同チーム「Team MUSASHI 2016」が2台体制で出場し無事に完走。タルガスピリット

賞をいただきました。出走した009号車(オレンジシビック)は研究科3年のメンバーが3ヶ月程を費やしてレストアを行った車両です。ラリーの期間中は車両整備やメカニックとしてチームに貢献しました。チームの皆さん、完走おめでとうございます!

国際自動車整備科



オーストラリア・ニュージーランド研修へ出発

3月15日、2016年度の海外就労研修に向け、国際科1年生(4月から2年生)が成田空港から出発いたしました。今年度はニュージーランド組が3名、オーストラリア組が4名の合計7名です。この1年間は就労研修にそなえて整備や英語、現地の文化や道路交通法などを学んできました。きつと今年12月に帰国するときは、みんな立派な国際人の卵になっていることでしょう。出発を前にした彼ら二組は、共に勉強した仲間どうし、年末の元気な再開を約束し研修へ旅立ちました。